

平成 25 年度 知床世界自然遺産地域 適正利用・エコツーリズム検討会議  
知床ロングトレイル・プロジェクト説明資料

知床ガイド協議会  
西原 重雄

① 第 1 回知床ロングトレイル・プロジェクト部会の概要

日時：平成 25 年 9 月 11 日（水）

場所：知床世界遺産センター

【部会設置】

構成 環境省、林野庁、開発局、北海道、斜里町、羅臼町、知床斜里町観光協会、知床財団、斜里山岳会（欠席）

事務局 知床ガイド協議会

【概要】

1. 知床ロングトレイル・プロジェクトの説明

- ・「部会の構成」：羅臼町が構成員に加わり、網走山岳会を除外した。当初の想定では、愛山荘を終着地点と想定していたため、網走山岳会を構成員としていたが、愛山荘を終着地点から外したため。
- ・「本プロジェクトの位置付け」：峰浜～ウトロ～知床峠～羅臼という全体計画の中で、部会の中ではまずはウトロ～知床峠間を優先して検討する。この区間は、愛山荘付近より下部が世界自然遺産の B 地区、上部が A 地区と、保全に関する計画が異なっているため、セクション 2（自然センター～愛山荘）とセクション 3（愛山荘～知床峠）を分けて議論する。今後は、一部の部会構成員（関係する行政機関と知床ガイド協議会、知床財団）で詳細な内容を検討する。愛山荘よりも上部の区間については、羅臼へのルートとの接続も考えなければならず、知床峠、天頂山、羅臼湖などの景勝地をどう組み入れるかを検討する必要がある。
- ・「セクション 2 のみ建設された場合は、どのような利用形態、利用者層を想定しているか。」：ロングトレイル愛好家に加えて、羅臼岳登山者が悪天候時の代替プランとして利用したり、自然センター～ポンホロ沼という利用形態もあり得る。想定される利用者数、利用者層、利用形態等を今後検討していく必要がある。
- ・「セクション 2 で想定される利用者数は。」：年間 100～500 人で計画している。
- ・「3 月の検討会議で中間報告、6 月の検討会議で最終承認を目指したい。」

2. ルートの選定について

- ・「100 平方メートル運動地を通過することに対する斜里町の姿勢」：単なる通過利用であれば認められないが、森林再生や適切な公開に資するのであれば利用の可能性はある。
- ・「ロングトレイルの一部だけが完成したとしても、それが魅力的かどうかは疑問。あまり利用が見込めないのに、建設する必要があるのか。」：あくまでも、全体計画の一部として延長を前提としながら建設する。現状では、歩く観光を求めて来る人は車道を歩いているが、そのような人に利用してもらいたい。どうしてもトレイルを建設できない区間は、仕方がないので、その部分だけ車道を歩いてもらうという解決策もある。今後、想定される利用者数や利用者層等を詳細に検討していく。

- ・「トレイル入口までのアクセスはどうなるのか。」：トレイル入口近くにある駐車帯をバス停にすることができれば、バスから下車してトレイルの利用が可能であるが、バス会社からの要望を受けて開発局が検討することとなる。道路敷地ではスペースが足りない場合、国有林との協議が必要。
- ・「国道には歩道がないので、ガードケーブルの外側を歩くことはできないか。」：現段階では想定されない。歩くからにはガードケーブルの外側に歩道を設置するが必要となる。
- ・「知床峠～羅臼の区間は、傾斜が急でササが高いため、ルートを選定が困難。」：現段階でルートを決める必要はない。まずはウトロ側を優先的に検討する。将来的に羅臼までつなげることができれば、魅力が上がることになる。

### 3. 管理体制について

- ・「想定される利用者層や利用者数は。ターゲットとなる利用者数は非常に限定的で、利用料金の徴収も非現実的。地域活性化のために、なるべく多くの人に利用しやすくするべきでは。」：利用者が多ければ、植生や生態系への影響が大きくなる。また、不特定多数の人が通常の歩道を歩く感覚で歩くと、管理のハードルが上がってしまう。羅臼湖や知床峠と同じように、「自己責任」という認識を持ってもらい、ガイド利用を推奨するというレベルが望ましい。管理体制や利用料などについて、今後詳細を検討していく。
- ・「事故が起きた場合の管理者責任はどうなるのか。」：基本的には「自己責任」での利用を発信して行きたい。

- ② 平成 25 年 10 月 4 日に中標津町で開催された「全国ロングトレイルフォーラム」に、山本（故知床ガイド協議会会長）と西原が参加した。

場所：中標津トーヨーグランドホテル

参加者 約 180 名

主催：中標津町観光プラットフォームモデル創出協議会

#### ■事例発表「北根室ランチウェイの現状と今後の方向性について」

発表者：北根室ランチウェイ代表・佐伯雅視氏

- ・8年がかりで中標津空港～養老牛～西別岳～摩周湖展望台のルートを整備した。
- ・ガイドツアーを開始している。
- ・ルートの一部では、森林管理局との調整に苦労している。
- ・将来的に女満別空港まで伸ばして、中標津空港から女満別空港までつなぎたい。

#### ■基調講演「スポーツツーリズムの推進とロングトレイルについて」

講演者：国土交通省観光庁スポーツ観光推進室長・八木和広氏

- ・スポーツツーリズムは未開拓の分野で、これから重要性が増す。
- ・観光のスタイルが多様化するなかで「歩く観光」の需要が伸びており、ロングトレイルが重要なキーワードの一つになっている。

#### ■パネルディスカッション「地域観光の未来づくりにおけるロングトレイルの可能性を考える」

パネリスト：日本ロングトレイル協議会会長・節田重節氏、NPO 法人信越トレイルクラブ事務局長・木村宏氏、JTB 総合研究所・篠崎宏氏、中標津町長・小林実氏、日本ロングトレイル協議会代表委員・中村達氏（コーディネーター）

- ・海外では、登山よりもロングトレイルを歩く方が一般的になっている。
- ・海外では、ロングトレイルで自転車を利用できるのが普通。
- ・大雪山縦走路も、十分に「ロングトレイル」となりうる。
- ・ロングトレイルは、十分な情報提供をして、自己責任で使ってもらうのが基本。
- ・ロングトレイルによって長期滞在者が増え、地域の活性化にもつながる。
- ・歩いてもらうだけでロングトレイルを作った人の想いが伝わる。